

暴力団員ら56人逮捕

大がかりなノミ行為

萩之茶屋の
南公園周辺

幡随院長兵衛は博徒といっても江戸初期の人だから賭博を専業にしたのではなくて、人を集めるために賭博場を常にひらいたのである。本業は當時新興都市だった江戸の市街の整備拡張と江戸城の改修などに必要な人足を仕事先へ世話する周旋業だった。人足を子分として家に置いて賃銀の上前をはねたが、その人足たちのなぐさめに賭博をさせたから自分は博徒の親分のようになったのである。一加太こうじ著・日本のヤクザより上の写真と見出しは、三月二〇日付朝日新聞（朝刊）に載っていたもの。

記事によると、警察が一月中旬から徹底取り締まりに乗り出したので、路上でのノミ行為は姿を消したそうだが、実際はどうかというところ、あんまり以前と変わっていないというのが本当だろう。

『日本のヤクザ』に書かれているごとく、バクチと手配師の歴史は長いし、それに手を出すものも昔から多い。特に公営ギャンブルなるものが白昼堂々と行われているのに、それを基にしているノミ屋だけを取り締ろうたって無理なことだろう。

『労働者の皆さん、汗の結晶であるお金を、暴力団の資金源にしないように。』ケッ、おきやあがれ、うまく行きや暴力団の資金をゴッソリこちらに頂いてやらあ。というのは夢のまた夢だろうが、ひょっとして元手が倍に……。やっぱり無理か。



自暴。机で持ち出して私設博を営む組員

（西成区萩之茶屋周辺）

※お詫び

「労働者渡世」の発行が不規則なのと、先月に常になく二ヶ月分の上映予定を載せたので、何月分と何月分を載せたのか忘れてしまい、今日（四月一日）映画館回りをした時に、五月分の予定も判っていますか、なんて聞いてしまった。答えは、まだ判らへん。というわけで、今月号娯楽欄は、ホンマにみすげらしくなっていました。どうもすまんことで御座居ます。

トビタ東映
電・64115801
入場料Ⅱ四〇〇円
千人の容疑者―異色サスペンス大作
脱獄（高倉健・菅原文太）
脱獄（秋吉久美子・仲代達矢）
脱獄（渡瀬恒彦・三益愛子）
脱獄（田宮二郎他）
4月17日―23日
4月24日―30日
4月31日

トビタ東映

電・64115801

入場料Ⅱ四〇〇円

千人の容疑者―異色サスペンス大作

脱獄（高倉健・菅原文太）

脱獄（秋吉久美子・仲代達矢）

脱獄（渡瀬恒彦・三益愛子）

脱獄（田宮二郎他）

トビタ東映

電・64115801

入場料Ⅱ四〇〇円

千人の容疑者―異色サスペンス大作

脱獄（高倉健・菅原文太）

脱獄（秋吉久美子・仲代達矢）

脱獄（渡瀬恒彦・三益愛子）

脱獄（田宮二郎他）

娯楽欄外

死刑台のメロデーという映画

トビタ08で五月八日から「死刑台のメロデー」という映画が上映される。

この映画は、実際にアメリカでおこったことをもとに作られているもので、主人公は、サックとヴァンゼッチ。この二人はイタリア系アメリカ人で、どちらかといえば、貧しく、アメリカでは低くおとしめられていた人達だった。

もう随分と前に見たので、詳しいことは覚えていないが、ともかく一九二〇年にアメリカで爆弾がヘレツして、アメリカ社会では差別され低く見られていたイタリア系サックとヴァンゼッチが犯人にされたあげられた。悪いことに、この二人はアナキストで（字幕ではアナキストⅡ過激派と表記）、日本においても、釜の労働者で釜共と親しいとなると随分とイヤガラセやならざるやらの、ということがあるのを見て、も理解できるだろうが、無茶苦茶な裁判で死刑の判決を下される。

助命運動が全世界で起されるが、助命の権限

とせいでんごんぱん

とせいでんごんぱん

とせいでんごんぱん

とせいでんごんぱん

ルデンボーイ 8日(14日) 瀝死刑台のメロディー 瀝ザ・ビッグマン 瀝?未定 15日(21日) 瀝戒厳令 瀝アマゾン対ドラゴン 瀝ファイヤーリーグの決斗 22日(28日) 瀝超犯罪ハイクライム 瀝大いなる勇者 瀝悪魔のはらわた 20日(6月4日) 瀝ブラック・デカメロン 瀝電子頭脳人間 瀝マッド・ボンバー

浪速クラブ

4月1日(20日) 瀝巨星座 責任者 島田高志 21日(31日) 瀝劇団若草 東京之介 責任者 若草かほる 5月1日(20日) 瀝二代目浪花三之介・男装の麗人 小月雄代 責任者 小柳誠

やる

やる、といっても、渡世編集委員会がアナタににをかを差し上げる、というのではなく、ましてや、娯楽調のことではありません。西成警察署の留置所をやる(爆破)わけではありませ

ん。もっと可愛らしいことであります。では何をやるのか、それはゴッコ遊びであります。幼稚園に行ってる子供や小学生なんかがよくやっている、ママゴトや医者ゴッコなどのゴッコであります。

小さい頃、誰しも何々ゴッコというのをやった覚えがあるだろうと思いますが、大人になってもこのゴッコ遊びが出来ると

を持つ州知事が言う、「もはや彼らが無実であるかどうか問題なのではない。あの勅命運動の拡がりを見よ。彼らは、その思想のゆえに死ななければならぬのだ」

一九二七年八月二十三日

サッコ、ヴァンゼツチ処刑さる

北米チャールスタウン監獄において

云うな!

サッコ、ヴァンゼツチは俺たちの心臓の中に生きています

サッコ、ヴァンゼツチを救え!

昨日までそれは俺たちの合言葉

全世界をあげての叫びだった

だが俺たちは果して俺たちの為し得る最善の

努力を尽したか

ありったけの声をしぼりだしたか

力はまだあまつていなかったか

ぐずぐずしてはなかったか

一略! 小野十三郎。サッコ、ヴァンゼツチの死

ジョーン・バエズの歌も、淡々としていてとてもすばらしい。一見の価値あり。(ヤジ馬)

いうのは、上段と恵まれた人、幸福な人だと思えます。ところで、釜にはこの手の恵まれた人というものは、かなりたくさんいるのではないのでしょうか。なぜなら、仕事へ行く先がよく変わり、やることも様々だから、時にはゴッコ遊びを楽しめる、という余餘にありつける可能性も、毎日同じことの繰り返しではないサラーマンよりも大なるものがあると思われるからです。

先日、大正駅でこんなことを見ました。大正駅は今ホームのカサあげ工事をやっていて、一輪車で砂を運んだり、プロッタを運んだりするのは勿論アノコです。その中の一人は、何を

(上段より)のという顔でした。首尾よく駅員になりすました、その人は、いく分かテレクさそりに上気した顔で、やったあとという感じを身体中にあらわして階段の方へ行きました。イヤ、いいですなあ。私も一度いいからああいうの、やって見たいものであります。夜遅くの電車、地下鉄や環状線に乗っていると、時々、次は何々、なんて車内放送のマネをして

とせいでんごんばん 電車が近づく、右手を直向にあげ、それから電車の行った方へ向けて水平にのびたのです。もちろん、人差指をピンとのばして、私はあわてて、本職の職員を見ました。職員は天王寺に近いい方だったので、その人の動作を最初から終わりまで見たはずです。どんな顔してたのか。不愉快そのもの(下段に続く)

ゴッコ遊びといえ、この頃は見なくなりましたが、以前に交通整理のポリさんの真似を専門にやっていた人もいましたね。この人、ボケツトにいつも笛をいれていて、気が向くという

とせいでんごんばん

とせいでんごんばん